

第四次

小城市子どもの読書活動推進計画

「子どもの笑顔が輝く」小城市



令和8年3月

小城市教育委員会

目 次

第1章 第四次小城市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって……………	1
1 目的	
2 位置づけ	
3 持続可能な開発目標(SDGs)の理念との整合	
第2章 第三次計画における成果 ……………	3
1 第三次計画の基本目標	
2 第三次計画の取組と成果	
第3章 アンケート結果から見た現状と課題……………	10
1 小学生・中学生・高校生のアンケート結果	
2 保護者のアンケート結果	
第4章 第四次小城市子どもの読書活動推進の基本方針 ……………	17
1 基本目標	
2 計画の期間	
第5章 子どもの読書活動の推進のための具体的方策 ……………	18
1 家庭における子どもの読書活動の推進	
2 地域における子どもの読書活動の推進	
3 学校等における子どもの読書活動の推進	
4 民間団体の活動に対する支援	
5 普及啓発活動	
第6章 推進計画の進捗管理 ……………	23

第1章 第四次「小城市子どもの読書活動推進計画」の策定にあたって

1 目的

子どもの頃の読書は、「読む」「書く」「聞く」という基礎的な教養を育むと同時に、想像力や表現力を豊かにしてくれます。平成14年8月に国が最初の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、それを踏まえ小城市教育委員会では、平成22年4月に第一次「小城市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。その後5年ごとに計画を改定し、継続的に子どもの読書活動の推進に努めてきました。

第三次「小城市子どもの読書活動推進計画」が策定された令和3年3月以降、SDGs（持続可能な開発目標）の取組やGIGAスクール構想による学校のICT環境の整備が進む等、子ども達を取り巻く読書環境は大きく変化しました。また、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、図書館の臨時休館や学校の休校等、子ども達の行動は大きく制限されました。

こうした予測不可能な状況が続く今、柔軟な想像力や発想力をもって臨機応変に対応できる人材を養うためにも、子ども達にとって読書は欠かせないものです。

小城市教育委員会では、子ども達がどこにいても本と触れ合い読書できる環境づくりを行い広い教養を育成するために、第四次「子どもの読書活動推進計画」を策定します。

2 位置づけ

計画の対象を0歳から概ね18歳までとし、小城市の「小城市教育振興基本計画」及び「小城市生涯学習推進基本計画」、国の第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、県の「佐賀県施策方針2023」等の上位計画を指針として、これまでの成果と課題を踏まえたうえで第四次「小城市子どもの読書推進計画」を令和8年3月に策定します。

国・県計画	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(国)	第五次							
佐賀県施策方針2023(県)								
小城市計画	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
総合計画	第3次 基本構想(10年)							
教育振興基本計画	第3次							
生涯学習推進計画								
子どもの読書推進計画				第4次				

3 持続可能な開発目標(SDGs)の理念との整合

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

SDGsの理念や関連性を意識し、本計画の基本方針のもと、行政、個人・家庭、地域、保育施設、学校、ボランティア等の各種団体の連携・協働によって、子どもの読書活動推進に努めます。



引用：国連広報センター

第2章 第三次計画における成果

1 第三次計画の基本目標

《広い教養の育成と家読(うちどく)の推進を行う読書環境づくり》

第3次「小城市教育振興基本計画」では、一人ひとりが生涯にわたって能動的に学び続け、未来に向けて高い志と理想を持って困難に立ち向かい克服していくための力である「生きる力」を育てていくことを目指してきました。

その実現のため、第三次「小城市子どもの読書活動推進計画」では、読書をとおして楽しい時間とコミュニケーションを積み重ね、子ども達と家族の絆が深まり、地域の中で育まれていくことを目指して子どもの読書活動を推進してきました。

2 第三次計画の取組と成果

子ども達が読書への関心を高め、読書の習慣を身に付けるため、「家庭における子どもの読書活動の推進」「地域における子どもの読書活動の推進」「学校等における子どもの読書活動の推進」「民間団体の活動に対する支援」「普及啓発活動」の5つの項目ごとに取り組んできました。

(1)家庭における子どもの読書活動の推進

・読み聞かせ会

親子で参加できる読み聞かせ会として月に数回のおはなし会を行い、家族での参加がありました。家族で同じお話を楽しむことは、親子での読書の定着の一助となっています。

・「うちどくノート」の作成

令和4年度より小城市独自の「うちどくノート」を作成し、市内の幼児教育・保育施設と小学校8校と連携して「うちどくノート」を子ども達に配布しました。毎年約4000冊を配布し、子ども達の家庭での読書活動を通じたコミュニケーションを促しました。

(2)地域における子どもの読書活動の推進

①市民図書館における子どもの読書活動の推進のための取組

・情報の提供

子ども達へイベント情報や新刊だよりを配布しました。イベントの対象学年に学校を通じて個別に配布することで、参加促進に繋がっています。また、市報やホームページに加え、令和5年度からは SNS での広報も実施しています。

・自動車図書館「本丸くん」

幼稚園・保育園・小学校をはじめ市内30箇所のステーションを巡回しました。小学校では昼休みに巡回を行い、子どもたちの本へ親しむきっかけとなるような環境づくりを支援しました。加えて、「本丸オリエンテーション」により小学1年生に図書館を身近に感じてもらい、読書に親しむきっかけとなっています。また、保育園等には「緑陰おはなし会」を実施し、絵本に親しむ一助となっています。

・各施設への司書の派遣

保育園等へは「緑陰おはなし会」小・中学校へは「出張おはなし会」、児童センター「ゆうゆうおはなし会」への参加等市民図書館の司書が各施設に出向き、おはなし会の関連本の紹介をする等読書の楽しみ方も伝えています。令和2年度には、新型コロナウイルス感染症により中止した会もありましたが、感染対策を講じながら開催をしてきました。

※各おはなし会参加者数

(人)

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
緑陰 おはなし会	—	102	67	121	112
出張 おはなし会	30	247	305	220	656
ゆうゆう おはなし会	57	94	97	79	68

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため「緑陰おはなし会」は中止しています。

・大きなおはなし会

おはなしボランティアグループと連携して各館で魅力あるおはなし会を行いました。家族での参加も多く、図書館の利用に繋がっています。令和2～3年度には、新型コロナウイルス感染症により中止した会もありましたが、定員を設ける等形式を変えたり、検温やマスク着用を参加者をお願いする等感染対策を講じたりしながら開催をしてきました。

※各おはなし会参加者数 (人)

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
でっかいおはなし会(三日月)	—	24	30	24	51
夏の大きなおはなし会(小城)	—	—	73	21	51
秋の大きなおはなし会(芦刈)	—	18	17	9	24
冬の大きなおはなし会(牛津)	—	21	15	40	18
クリスマスおはなし会(三日月)	46	31	53	62	58

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止したおはなし会があります。

・一日図書館職員体験

各館で小学生を対象に行いました。応募が多く、毎回抽選での参加となり、参加者は図書館職員の仕事を体験することで、図書館を身近に感じ、その後の利用促進に繋がっています。

・除籍本の優先譲渡

小城市民図書館の除籍本のうち、絵本と紙芝居は市内の幼稚園・保育園等に優先的に譲渡しました。令和6年度は、9園に合計132冊の絵本を提供しました。

・ブックリサイクル

令和6年度は、各館・分室を合わせて5回実施し、年間644名の参加者がありました。来館促進に繋がりました。

・学校司書合同研修会の開催

学校図書館との連携・協力事業として、年1回、年度始めに市民図書館、学校図書館合同研修会を開催し、市民図書館の利用方法等の説明を行い、学校との連携を図りました。

・団体貸出

学校図書館との連携・協力として、学校と図書館システムを共用しており、調べ学習のための活用や、相互貸借での学校の本の充実の一助になっています。また、市内全ての学校で団体貸出を行っています。

・ティーンズイベント

10代の子どもたちを対象にした図書館イベントを年に1回開催しました。令和6年度は図書館での謎解きイベントを行い、11人が参加しました。休館日に行い、図書館内に設置されたクイズを全て解けたらゴールにたどり着くというイベントで、図書館に関するクイズに挑戦して楽しむ参加者の姿が見られました。10代の子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけづくりに繋がりました。

②子どもの読書活動推進のための市民図書館機能強化

・子ども向け資料の充実 児童書の蔵書数の増加

子ども達に図書館を利用してもらうため、児童書の蔵書数を増やしました。

※児童書の蔵書数の推移

(冊)

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
蔵書数	100,031	101,602	102,683	102,826	104,286

※市民図書館の貸出冊数と児童書の貸出冊数の推移

(冊)

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
児童書貸出数	105,872	114,202	107,393	103,468	103,902
全体の貸出数	295,875	297,385	277,052	270,201	249,954

・^{うちどく}家読の推進

令和3年度に「第8回佐賀うちどくフェスティバル in 小城」を開催しました。絵本作家川端誠さんによる「絵本とともに旅をして」という講演や小城市立三里小学校とおはなし会「三日月」による実践発表等を行いました。参加者は146名でした。

日時: 令和4年1月15日(土)13時30分～16時30分

場所: ドウイング三日月 多目的ホール

内容: テーマソング合唱 小城市立三日月中学校合唱部

実践発表 小城市立三里小学校・おはなし会「三日月」

講評 佐賀女子短期大学名誉教授 白根恵子

特別発表 絵本専門士 若林みずほ

基調講演 絵本作家 川端誠「絵本とともに旅をして」



▲佐賀うちどくフェスティバル in 小城の様子「小城市三日月中学校合唱部」

また、「佐賀うちどくフェスティバル in 小城」の関連イベントとして、令和3年8月7日(土)に「うちどくマラソン～本の読み手になってみよう!～」を開催し、20名の参加がありました。

(3)学校等における子どもの読書活動の推進

①幼稚園・保育園・認定こども園等

・読み聞かせの活動

すべての幼稚園・保育園・認定こども園等で保育時間中等1日に2～3回の読み聞かせが行なわれています。また、定期的に地域の読み聞かせボランティアに来園してもらい、読み聞かせが行われている園もあります。

・読書活動推進

園児への貸出を実施している園が9園あり、園児が絵本や物語に親しむ機会を増やす活動に取り組み、家庭での読み聞かせに繋がっています。

②放課後児童クラブ

市内には19の児童クラブがあります。各施設に読書コーナーはありますが、蔵書数が少ないクラブも多く、小城市民図書館の団体貸出を利用されているのが現状です。

③小学校・中学校

・学校図書室の所蔵図書の充実、市民図書館との相互貸借

学校と、図書館システムを共用しており、市民図書館との相互貸借を活用することで、学校図書室での所蔵の充実や環境整備に繋がっています。

・全校一斉の読書活動

各小中学校で全校児童生徒を対象にした図書館まつりや読書週間で、くじ引きやスタンプラリー等多彩な取組が行われ、親しみやすい図書室としての利用に繋がっています。

・推薦図書コーナーの設置

多読者おすすめの本、教科書にのっている本を紹介するコーナー等が設置され、体系的な読書活動の推進が行われています。

・読書量の目標設定

読書目標冊数を設定し、達成者を表彰したり、ゴールドカードを作成したりすることで、読書習慣を身に付け、読書の幅を広げる取組に繋がっています。

・学校図書室を活用した授業の実施

国語、社会等の教科や様々なテーマを設定した調べ学習が行われ、なかでは担任や司書が授業関連の本や紙芝居の実演をして読書に興味を持たせる取組が行われています。

・おはなしボランティアと連携した読み聞かせや朝の読書の実施

全ての学校で朝の読書やおはなしボランティアによる読み聞かせ等の定期的な読書活動が行われています。小城市民図書館からも出張おはなし会として学校に出向き、読み聞かせを行い、おはなしをとおして本のすばらしさを伝え、興味を繋ぐ機会となっています。

・資料・施設の整備・充実

今回のアンケート調査(R6 年度実施)によると学校図書館図書基準※にもとづく学校図書館の蔵書冊数は、小学校は75～99%達成が前回同様3校で、100%達成が5校です。中学校では、4校すべてで100%達成となりました。学校図書室の図書を充実させることで、児童生徒の読書環境を整えています。

※学校図書館図書基準

学校図書館の図書の整備を図る際の目標として平成5年3月に文部省が設定したもので、学級数に応じて必要な標準蔵書冊数を示しています。

・学校図書室の活用を推進していくための人的配置の推進

全ての学校に学校司書が配置され、12学級以上の学校については、司書教諭も配置されています。児童生徒がいつでも学校図書館を活用できる体制を整えると共に能力向上のための研修会等も行われています。

(4)民間団体の活動に対する支援

小城市内で活動するおはなしボランティアグループにより構成された「小城市おはなし協議会」による年1回の研修会(おはなし会の実地研修や県内図書館への視察等)実施に際し、連携・支援を行うことで構成団体の活発な活動を促進しました。

(5)普及啓発活動

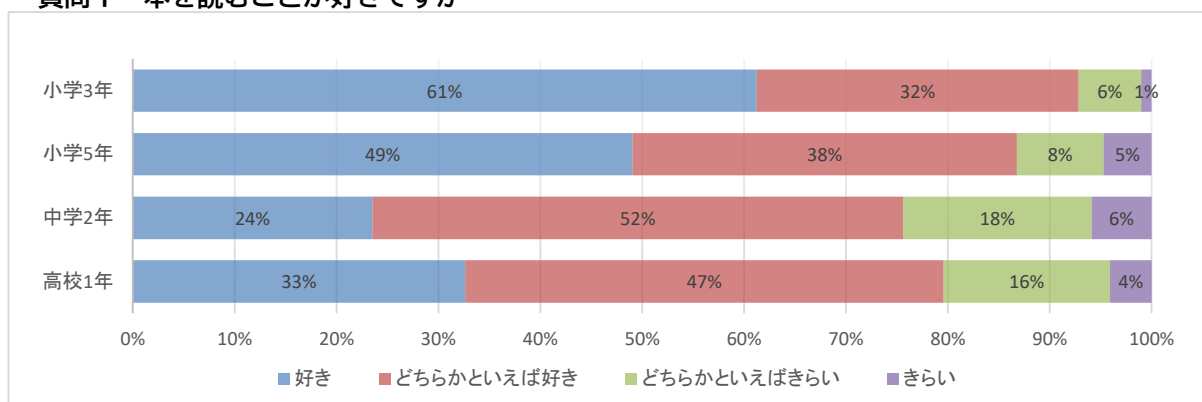
「子どもの読書活動推進月間」にあわせ、親子を対象とした大きなおはなし会等のイベントに取り組みました。令和5年度に小城市民図書館をより多くの方に知ってもらうため、YouTube に動画を公開しました。また、新たに文化課のInstagramを開設しイベント等の様々な情報の発信にも努めました。

第3章 アンケート結果から現状と課題（分析）

このアンケートは、第三次小城市子どもの読書活動推進計画の見直しにあたり、小城市の就学前児童、小学校低学年、小学校高学年及び中学生の読書活動の現状と課題を把握するために、市内の小学校3年生、5年生及び中学2年生を対象とし、各4校からそれぞれ1クラスを選びました。また今回、国の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」にて高校生の不読率について示されたことに伴い、高校生の読書活動の現状を把握するため、新たに小城市の高校1年生を対象とし、市内2校からそれぞれ1クラスを選びました。保護者については、市立幼稚園、市立保育園、私立保育園の5歳児クラスを選び、実施しました。

1 小学生、中学生、高校生のアンケート結果

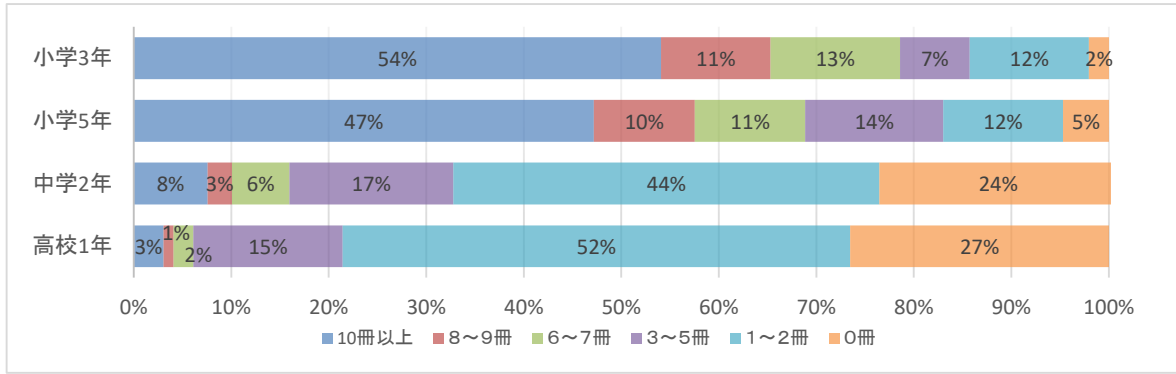
質問1 本を読むことが好きですか



「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小学3年生は91人（93%）、小学5年生は92人（87%）、中学生は90人（76%）、高校1年生は78人（80%）です。全体では、読書好きの子どもが351人（83%）で、前回に比べ3%増加しました。

一方、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた小学3年生は7人（7%）、小学5年生は14人（13%）、中学2年生は29人（24%）、高校1年生は20人（20%）です。「読書が嫌い」と答えた理由として、小学生、中学生、高校生全員が「長いから」と答えました。その他にも「めんどうだから」「文字が多いから」という理由も多くみられました。

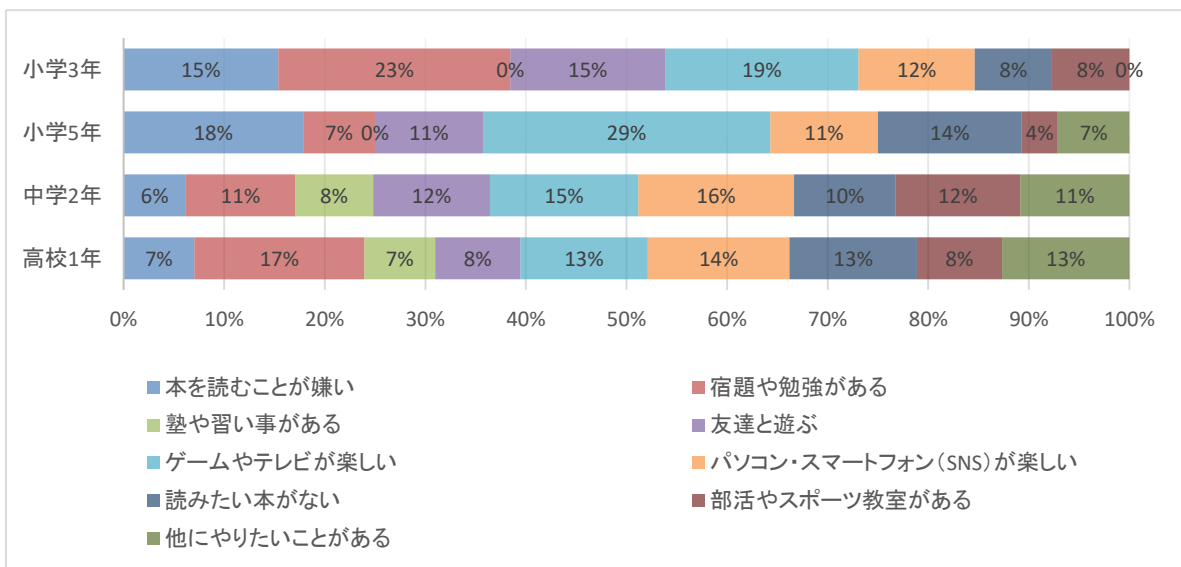
質問2 1か月に何冊本を読みますか



「月1冊以上本を読む」と回答した小学3年生は96人（98%）、小学5年生は101人（95%）、中学2年生は91人（76%）、高校生は72人（73%）です。全体では、月1冊以上本を読む子どもの割合が85%となっています。前回と比べると、小学3年生は3%増加、小学5年生は6%増加していますが、中学2年生は9%減少しています。

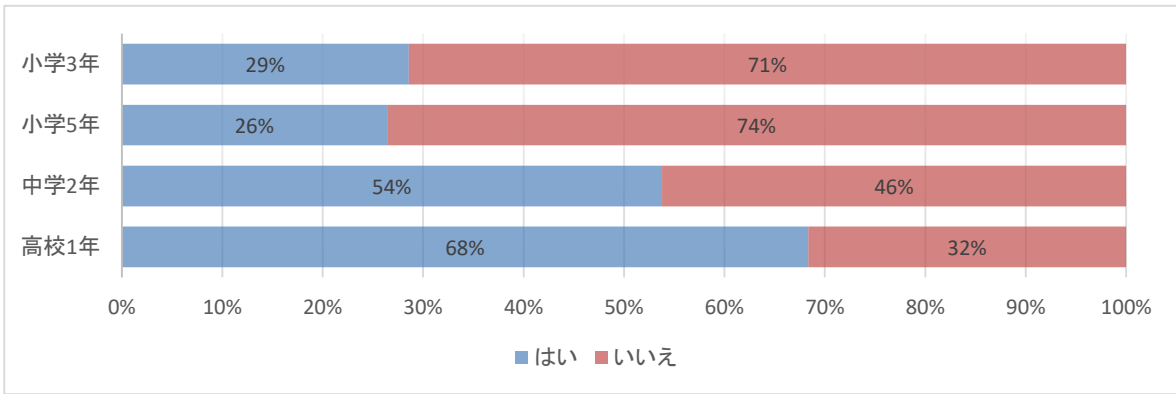
一方で、「0冊」と回答した小学3年生は2人（2%）、小学5年生は5人（5%）、中学2年生は29人（24%）、高校1年生は26人（27%）です。

質問3 「0冊」に○をつけた人に聞きます 本を読まなかったのはなぜですか



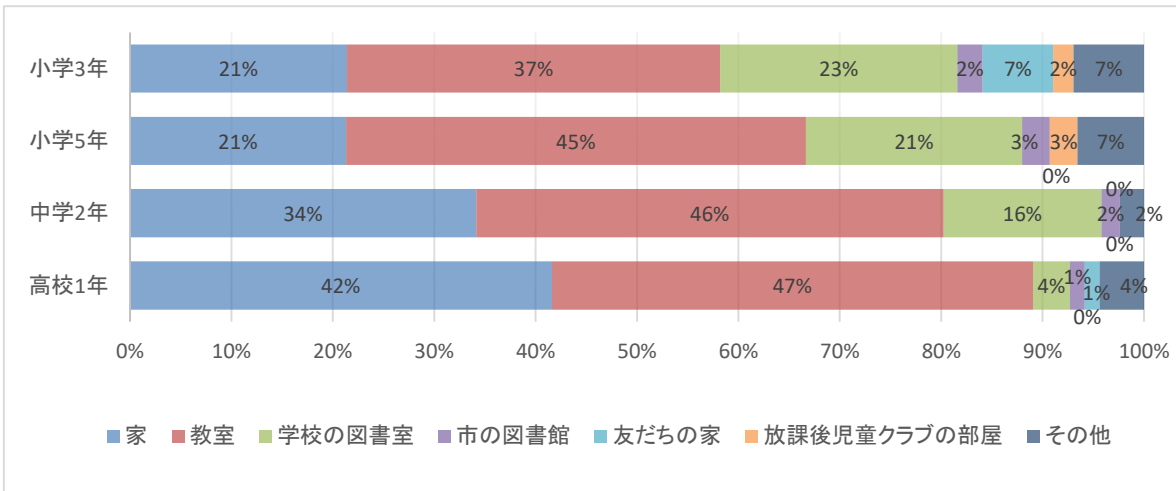
本を読まない理由として、全体で「ゲームやテレビが楽しい」が一番多く、続いて「友達と遊ぶ」「宿題や勉強がある」が多くなっています。「本を読むのがきらい」という回答は全体で9%みられ、前回とほとんど同じ割合でした。

質問4 インターネットや携帯電話・スマートフォンで物語やマンガなどを読んだことがありますか



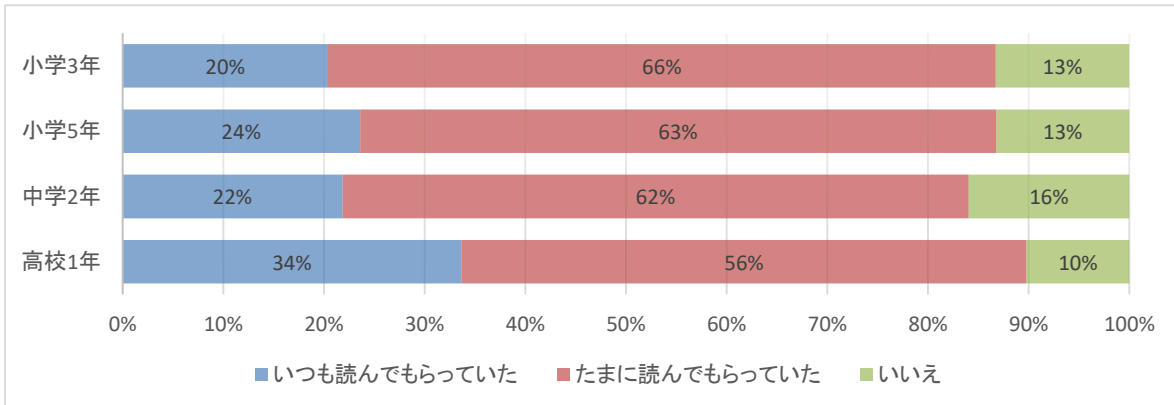
「はい」と回答した小学校3年生は28人（29%）、小学5年生は28人（26%）、中学2年生は64人（54%）、高校1年生は67人（68%）です。前回と比べると「ネット環境で読書したことがある」と回答した小学生は9%減少し、中学生は5%増加しています。

質問5 どこで本を読むことが多いですか（複数回答）



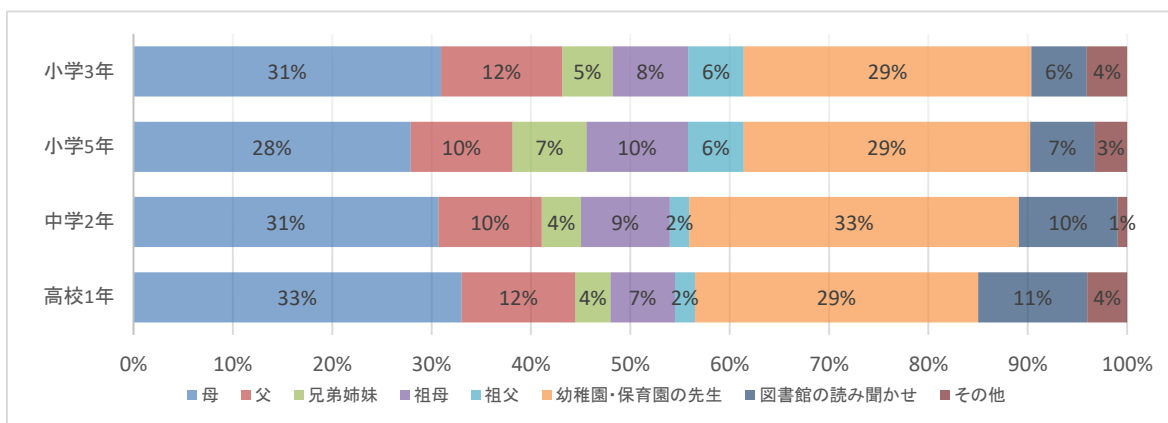
前回同様に全体的に家、教室、学校の図書室など身近な場所での利用が多く、特に教室が最も多い結果となりました。その一方で、市民図書館の利用は全体で15人（2%）となっており、前回と比べると5%減少しています。

質問6 小さいとき（小学校入学前）本を読んでもらったことがありますか



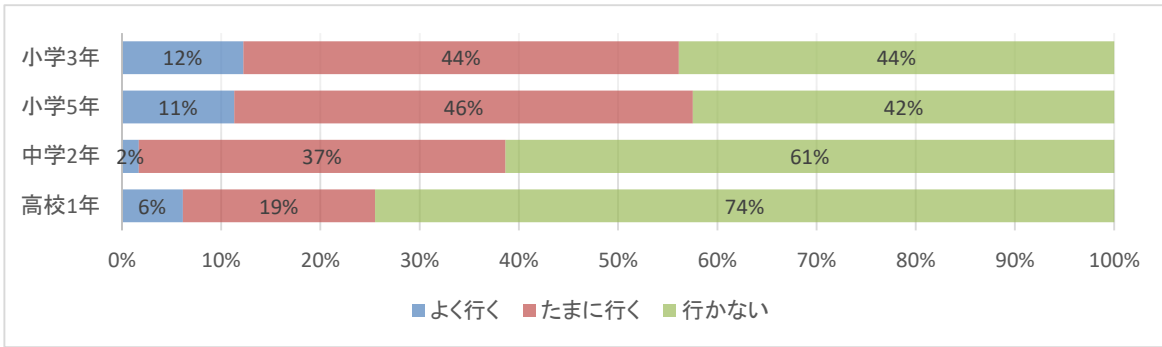
「いつも読んでもらっていた」「たまに読んでもらっていた」と回答した人は小学3年生は85人（86%）、小学5年生は92人（87%）、中学2年生は100人（84%）、高校1年生は88人（90%）でした。本を読んでもらっていたことがあると答えた人は全体で87%でした。

質問7 「読んでもらった」に○をつけた人に聞きます だれが本を読んでくれましたか（複数回答）



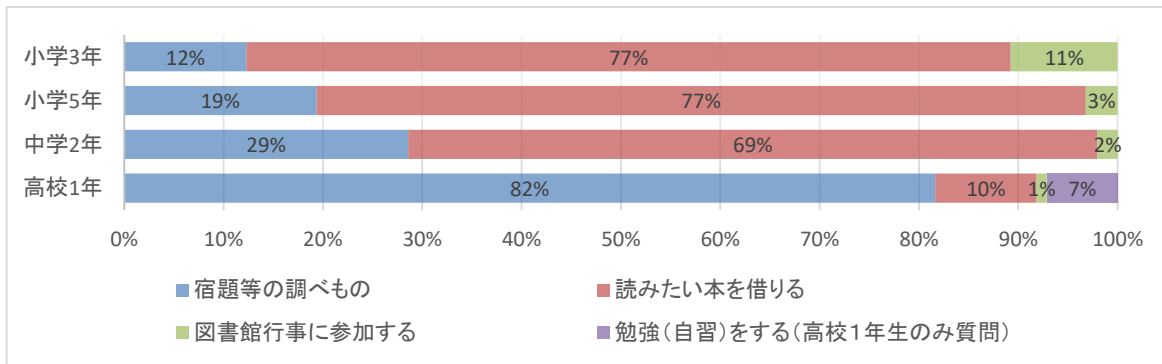
「母」「幼稚園・保育園の先生」が約30%ずつで、前回とほぼ同様です。「父」と回答した割合が、前回よりも3%程度増えています。

質問8 市の図書館（三日月館・小城館・牛津分室・芦刈分室）に行きますか



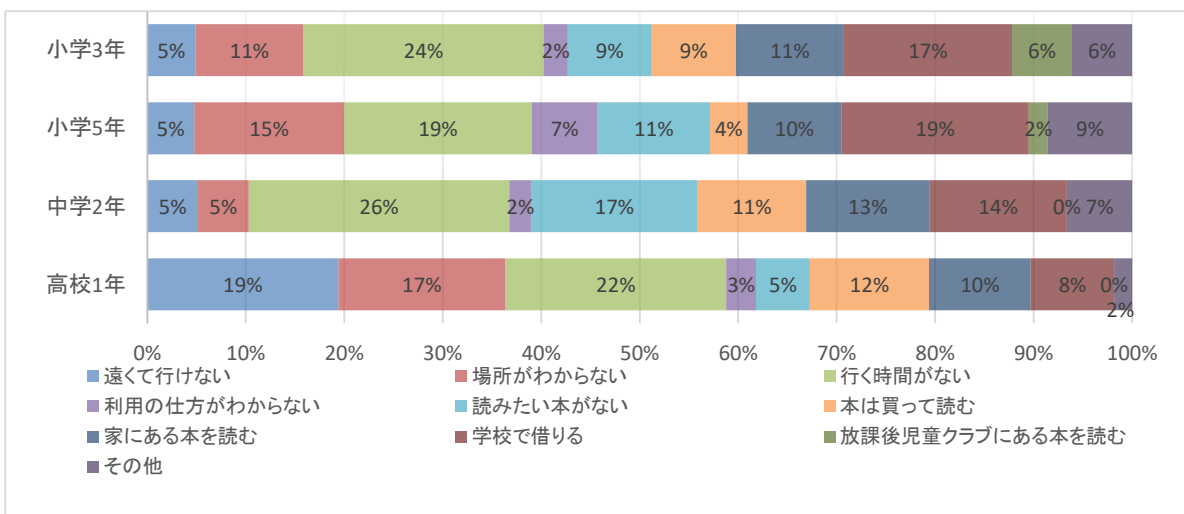
全体の半数以上が市の図書館に「行かない」と回答しました。それぞれ前回と比べると小学3年生が17%増加、小学5年生は4%増加、中学2年生は6%増加していました。また、高校1年生も73人（74%）が市の図書館に「行かない」と回答しました。

質問9 市の図書館へ「よく行く」「たまに行く」に○をつけた人に聞きます。どんなときに行きますか（複数回答）



小学生、中学生は「読みたい本を借りる」が一番多く、高校1年生は「宿題などの調べもの」が一番多くみられました。

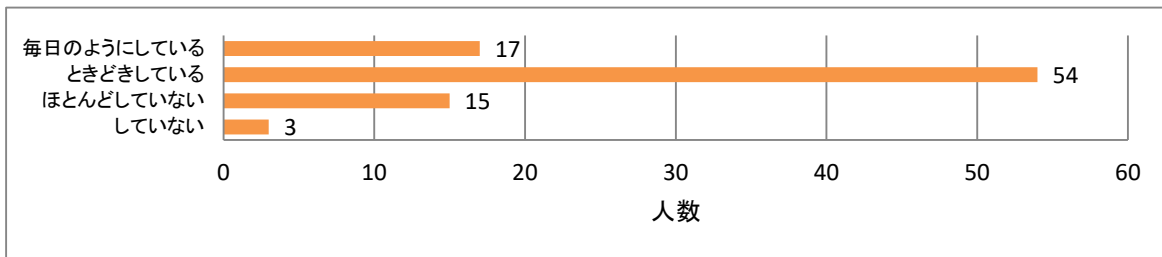
質問10 市の図書館へ「行かない」に○をつけた人に聞きます 行かないのはなぜですか（複数回答）



市民図書館に行かない理由として、全体で「行く時間がない」が一番多くありました。小学3年生、小学5年生は次いで「学校で借りる」が多く、中学2年生は「読みたい本がない」が多くありました。高校1年生は次いで「遠くて行けない」が多くありました。

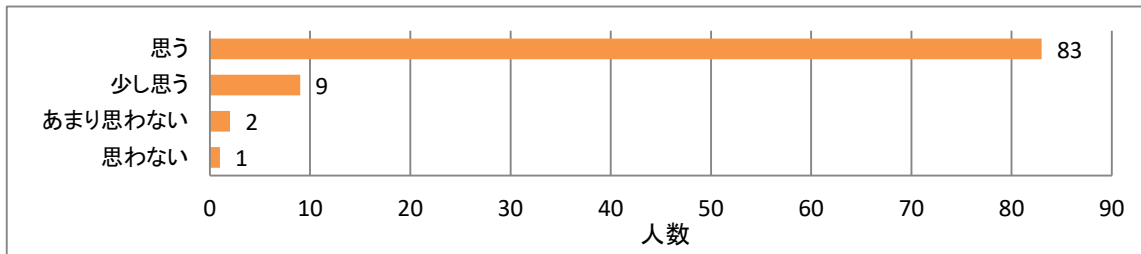
2 保護者のアンケート結果

質問11 家庭で読み聞かせなどをされていますか



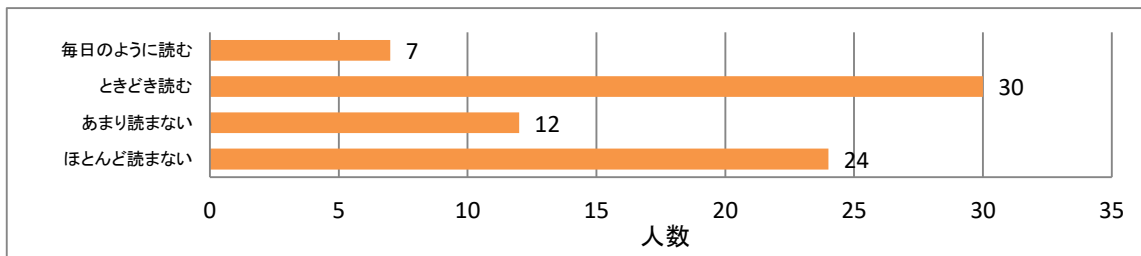
「毎日のようにしている」「ときどきしている」と回答した保護者が71人（80％）です。前回に比べ5％増加しています。家庭での読み聞かせを行っていない理由として「時間がない」が93％で一番多くみられました。また「必要と思わない」という回答も1％ありました。

質問12 読み聞かせは、子どもの成長に役に立つと思われますか



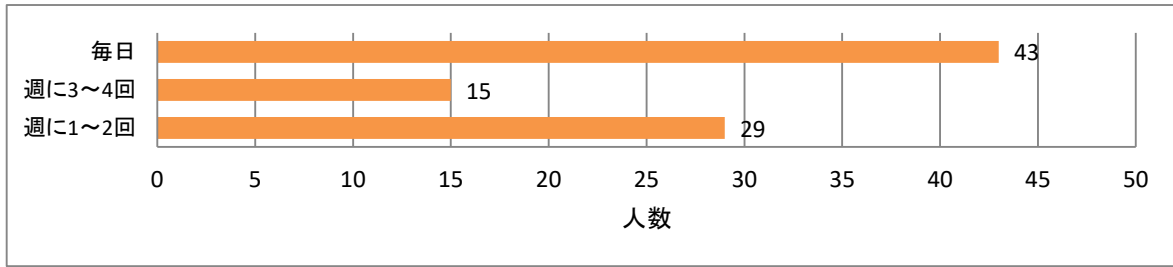
「思う」「少し思う」と回答した保護者は92人（97％）で、前回と比べ9％増加しています。一方で「あまり思わない」「思わない」と回答した保護者は3人（3％）でした。

質問13 保護者の方はどのくらい本を読みますか



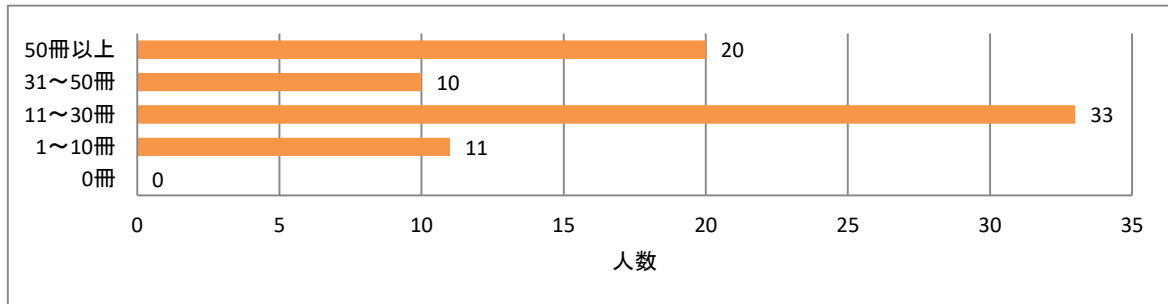
「毎日のように読む」「ときどき読む」と回答した保護者は37人（51％）、「あまり読まない」「ほとんど読まない」と回答した保護者は36人（49％）でした。

質問14 保育園・幼稚園での読み聞かせはどのくらいの頻度でしてほしいですか



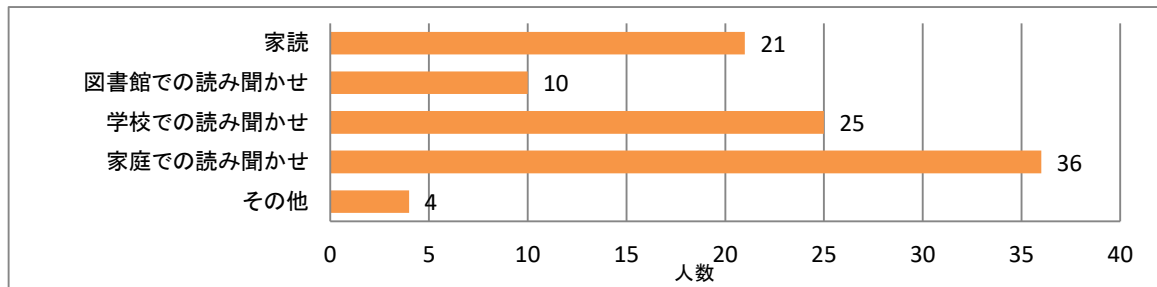
「毎日」と回答した保護者は43人（49%）で前回と比べ2%増加しました。

質問15 家庭に絵本は、何冊くらいありますか



回答されたすべての家庭に絵本がありました。絵本の冊数は「11~30冊」と回答した保護者が33人（45%）が一番多くありました。次に「50冊以上」と回答した保護者が20人（27%）と多くありました。

質問16 お子さんが小学生以降にも読書に親しむにはどんなことをしたらいいと思いますか



「家庭での読み聞かせ」と回答した保護者が36人（38%）が一番多くありました。前回と比べて4%増加しました。また「家読」と回答した保護者が21人（22%）あり、前回と比べると5%増加しました。

第4章 第四次小城市子どもの読書活動推進の基本方針

1. 基本目標

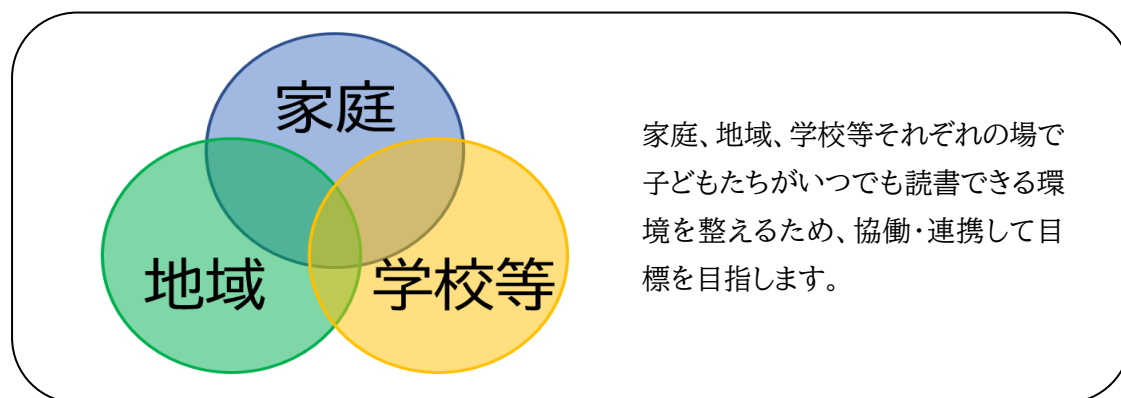
《幼児から高校生の年代まで切れ目のない読書環境づくりと、広い教養の育成》



社会は大きく複雑に変化していき、予測できない状況が続いています。その中で多様な人々と協働し、社会的変化に臨機応変に対応していけるよう読解力、想像力、思考力、表現力が求められています。こうした能力を養うためにも、子ども達の読書活動の推進は必要不可欠です。

「第2次小城市総合計画」の将来像である「誇郷幸輝（こきょうこうき）～みんなの笑顔が輝き幸せを感じるふるさと小城市～」の実現を目指す「第3次小城市教育振興基本計画」の基本目標は「城創伝心」（じょうそうでんしん）としています。「城創伝心」とは小城市の歴史と伝統を受け継ぎ文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくりをめざしています。「第3次教育振興基本計画」では、未来に向けて高い志と理想を持って困難に立ち向かい克服していくための力である「生きる力」を育てていくことを目的としています。

その実現のために、「第四次小城市子どもの読書活動推進計画」では、読書習慣の形成に大きく影響する子どもの時期の読書習慣の形成を促し、読解力、思考力、想像力といったこれからの時代に必要な能力の形成に努めます。幼児から高校生までの切れ目のない読書環境を整備することで子ども達が平等に広く多様な知識を得る機会を設けることを目指します。



2. 計画の期間

令和8年度から5年間とします。なお、社会情勢や小城市内の読書環境を考慮しながら、必要に応じて見直しを行うこととします。

第5章 子どもの読書活動の推進のための具体的方策

第四次「小城市子どもの読書活動推進計画」では、子どもたちが読書への関心を高め、読書の習慣を身に付けるために、今後、以下の5つの項目ごとに取り組んでいきます。

1. 家庭における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

アンケートの結果、96%の保護者は読み聞かせは子どもの成長に必要であるという認識ですが、実際には20%が「時間がない」等の理由で行われていません。また、約半数の保護者自身も「本をあまり読まない」、「ほとんど読まない」と回答しています。さらに、「保育園・幼稚園でどれくらいの頻度で読み聞かせしてほしいですか」という質問に対し、約半数の保護者が「毎日」と回答しており、読み聞かせの大切さの認識はあるが、時間がないため家庭での読み聞かせが難しい場合もあり、施設での読み聞かせに期待されている様子がうかがえます。

子どもが本に親しむきっかけは家庭にあります。家庭においては、親子で一緒に本を楽しむことにより、子どもの読書への興味を引き出すよう働きかけることが望まれます。しかし、テレビやゲーム、スマートフォン等の急速な普及により、子ども達を取り巻く生活環境は大きく変化しました。読書に親しむためには、年齢に応じた「家庭での読み聞かせ」や「家読」^{うちどく}を重点的に進め、保護者へ向けた家読の重要性の更なる理解促進を図っていく必要があります。

〈具体的な取組〉

- ・ブックスタート関連事業の開催
- ・幼児期から高校生まで年齢に応じた図書の実施
- ・親子で参加できる読み聞かせの実施
- ・「家読おすすめ本」のリスト発行
- ・「家読ブックコーナー」の設置
- ・家読の推進・普及

2. 地域における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

前回同様、学年が上がるにつれて、市民図書館を利用しない子どもが増える傾向は、おおむね変わりません。その理由は、小学生では「行く時間がない」「学校で借りる」の割合が高く、中学生では「行く時間がない」「読みたい本がない」の割合が高くなっています。高校生では「行く時間がない」「遠くて行けない」の割合が高くなっています。また、市の図書館に希望することとして、小・中学生では「コミックを含めた様々なジャンルの蔵書の充実」、高校生では「勉強スペース」を望む声が多くあげられています。

子どもたちが読みたい本をそろえる等の蔵書の充実や、地域における子どもの読書活動の拠点として、すべての利用者が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受できるようにすることが課題です。

〈具体的な取組〉

- ・子どもたちへの市民図書館のイベントや所蔵資料等の情報提供
- ・幼児期から高校生まで年齢に応じた図書の充実
- ・家読おすすめ本の充実
- ・外国語の絵本や読書バリアフリーに対応した本等、多様な子ども達に応じた図書の充実
- ・一日図書館職員体験の開催
- ・ティーンズ講座の開催
- ・図書館講座の開催
- ・ブックスタート関連事業の開催
- ・学校図書館との連携・協力、団体貸出・合同研修会の開催
- ・市内のおはなしボランティアグループとの連携、魅力あるおはなし会の開催
- ・幼稚園、保育園、認定こども園等や、小・中学校、児童センターでのおはなし会への司書の派遣
- ・自動車図書館「本丸くん」の巡回
- ・デジタル社会に対応した読書環境の整備
- ・高校生向けの図書案内の作成

3. 学校等における子どもの読書活動の推進

○現状と課題

読書が好きと回答した割合について、小学生では90%、中学生では76%、高校生では80%という結果でした。高校への施設アンケートにおいて、読書推進のための高校での取組として「読み聞かせ」や「朝の10分読書」等の回答があっており、これらの取組が一助となり、上記の結果につながったのではないかと考えられます。本を読まない理由として、小学生では「ゲームやテレビが楽しい」、中学生では「パソコン・スマートフォン（SNS）が楽しい」、高校生では「勉強や宿題がある」という回答が多くみられました。

子どもたちが読みたい本を増やす等、小・中学校図書館の蔵書の充実を図ることや、支援員やボランティアグループ、学校司書との連携を図ることによる読書環境の整備・充実が課題となります。

〈具体的な取組〉

(1) 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進

- ・子どもが本に興味を持ち、親しむことができる環境の整備・充実
- ・おはなしボランティアグループによる読み聞かせ

(2) 小学校・中学校における子どもの読書活動の推進

- ・学校図書室の所蔵図書の充実、市民図書館とのネットワークによる相互貸借の実施
- ・学校司書の能力の向上のための研修会・講習会への参加
- ・児童生徒に向けた図書館だよりの発行
- ・朝読等定期的な読書活動の実施

(3) 高等学校における子どもの読書活動の推進

- ・学校司書の能力の向上のための研修会・講習会への参加
- ・生徒に向けた図書館だよりの発行
- ・朝読等定期的な読書活動の実施

4. 民間団体の活動に対する支援

○現状と課題

平成25年4月に「小城市おはなし協議会」が設立されました。ボランティアグループ(13団体)が活発に活動されていますが、どの団体も会員数が減少しており会員の養成や確保が課題です。

また、市内には、令和7年度、19の放課後児童クラブがあり、小学1年～6年生までが利用しています。図書コーナーの冊数が少ないクラブもあり、全てのクラブで市民図書館の団体貸出を利用されています。

一方、読み聞かせについては、ほとんどのクラブで「大切である」と認識はされているものの、「時間がない」「子どもたちが自分で読めるから」等の理由で約8割のクラブで定期的な読み聞かせは行われていないところが課題です。

〈具体的な取組〉

(1)おはなしボランティアグループへの支援と連携

- ・おはなし会開催等の連携
- ・交流会を開催
- ・おはなしボランティアグループ相互の情報交換や研修
- ・会員の養成や確保のための読み聞かせ等の研修会の開催

(2)放課後児童クラブへの支援と連携

- ・市民図書館での団体貸出の実施
- ・おはなしボランティアグループとの連携

5. 普及啓発活動

○現状と課題

「子どもの読書週間」にあわせて絵本の展示や大きなおはなし会を実施しています。また、スタンプラリー等の行事を開催し、読書推進につながるよう取り組んでいます。

市民図書館のホームページやSNS、市報への図書館情報の掲載、学校等へのチラシ配布等で各種情報を提供していますが、利用者増につなげるために、イベントの内容を、利用者が興味を持って気軽に参加できるものにしていく等の対応が課題となります。

〈具体的な取組〉

- ・絵本の展示、おはなし会の実施
- ・市民図書館のホームページの充実
- ・市報での情報提供
- ・市民図書館イベント・新刊情報等のチラシの配布
- ・SNSでの情報提供
- ・家読の取り組みの広報

小城市民図書館ホームページ

<http://library.city.ogi.saga.jp/>



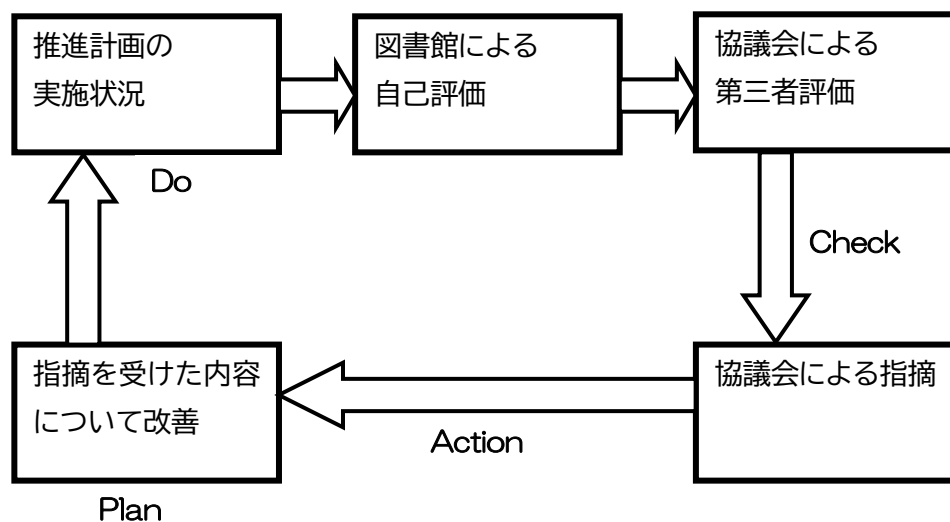
小城市文化課 Instagram(インスタグラム)

<https://www.instagram.com/ogibunka/>



第6章 推進計画の進捗管理

毎年、小城市民図書館協議会において、また、PDCAサイクルに基づく事務事業評価や教育委員会第三者評価委員会の結果等に基づき、本計画の各施策の取り組みの進捗管理に努めていきます。



※PDCAサイクル

PDCAサイクルとは、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒点検・評価（Check）⇒改善（Action）のサイクルで進捗管理を行う流れのことです。

小城市教育委員会

小城市民図書館

TEL 0952-72-4946(三日月館)

FAX 0952-72-1828

E-MAIL tosyokan-mikatsuki@city.ogi.lg.jp